_/_/_/

さねばならない状態です。いまから 70 年近く前に、米国留学の機会を得られた中小企業研究の泰斗・故礒部浩一教授は、与えられた外貨枠があまりに少ないため、客船の船底の安い三等船室に耐え、何日もかけて太平洋を渡られたそうです。

もちろんそれは、すべて歓迎すべきことでもない面もありましょうし、また世界が単純に一つになる、あらゆる壁がなくなるというものではなく、むしろ国際化が進めば進むほど、文化の独自性、地域の経済社会の積極的な存在意義へのこだわりも、いっそう強くなるとも言えましょう。

それは「国際化」という名の下で、つよいもの、力あるものが他を圧迫し、それぞれのアイデンティティと存在の基盤と生存の権利を奪っていく危険とも決して無縁なものではありません。乱暴なたとえですが、EU 欧州連合が 50 年をかけて追求してきた、欧州の統合という困難な歩みも、70 年前に独裁者に率いられたドイツ第三帝国が力をもって他の諸国諸民族を支配抑圧し、「統合」を実行してしまった、それと同じであってはならないわけです。ですからこうした苦痛に満ちた過去を踏まえ、EU 加盟国も慎重に、すべての民族・地域・文化を尊重しながら、基本的な権利と経済的繁栄の共有向上を目標として、欧州の統合を進めてきたのです。しかもそれでもなお、この 5 年間では EU 内での経済的社会的矛盾が深まり、対立や統合への懐疑の構図が表面化してきています。国際化は決して単純な筋書きのもとでの予定調和な世界をもたらしてくれるものでもありません。

こうした構図は残念ながら、アジアをめぐってはこの数年間で相当の矛盾と対立・摩擦を招いています。「国際化」の不可避性、またそのもたらす利益には誰もが否定をできなくても、だからまたいっそうのこと、せまい「仲間」同士でのみ固まろうとする「内向き」の機運、他者を排除したり反発したりする動きが目立ってもくるのです。それにはもちろん、今日に至る歴史的な事情、さまざまな個別経済的利害の対立なども根深く絡んでいるでしょう。これまた乱暴に言えば、国際化のもとで、自分たちのアイデンティティが失われる、なにかつかみがたい巨大な流れに飲み込まれそうな思いがする、そこに「排除」の論理のうえに立つ「身内」共同体に精神的な安住の場を無理にでも求め、旗印ばかりにこだわるような、そんな志向性も広がっているのではないでしょうか。しかも、国際化の結果としては、そうした内向きの論理と感情表象もあっという間に世界中に広まってしまい、人目にさらされ、嫌悪と対立のエコーの増幅を招くのです。

しかし、「内向き」にいくら固まってみようとしても、現実の経済社会のありようはもはやとどめようもなく、世界的な規模での相互の関連と依存を深めています。いま、世界の貿易が止まってしまえばいったいどんなことが生じるか、想像を絶するものです。この展開は決して、誰かの「陰謀」でも独裁者の征服欲の結果でもありません。不可避の進展の過程なのです。ましてや、資源も乏しい日本においては、人材の力と技術・経済諸活動の蓄積と豊かなこころと創造性の発揮をもって、全世界、またアジア圏などと協調し、交易と交流を深め、その一員としての積極的な貢献をなし、共存共栄と平和と安定の確立に寄与するほか、この国際化時代に生きる道はないと思うのです。

ICSB などの国際組織に参加貢献することは、個々の研究者・政策関係者・実務家等にとっては、自身の

研究成果や実践経験、そこからもたらされた意見や主張を世界の場に示し、理解を求め、また世界中のカウンターパートたる人々の見解や経験蓄積に耳を傾け、議論を重ね、より高い理解に進む道筋であることは言うまでもありません。また、こうした場に直接足を運ぶことで、「この目で見る」ことのできる、異なる社会・文化のもとでの人々の仕事と暮らし、企業活動や行政の実態を知る、あるいは取引や市場開拓の手がかりを得られる絶好の機会も至る所にあります。しかしなによりも、国際化のもとで人間同士として、出会い、知り合い、お互いをよき友としていくことができる、これこそが真の意味で国際化を生かし、人間力をもって、相互理解と共存協力をもたらす道筋そのものなのではないでしょうか。それはとりわけ、中小企業を営み、そこで働き、生き甲斐を得ているすべての人々、これを支え、中小企業の発展と安定を望むすべての関係者に、非常に意味のあることであり、貴重な機会なのだと思います。

「エイゴ苦手だから」、こうした機会を避けようとしたりするのは、あまりにもったいないことです。井出理事も書いておられるように、日本の企業経営や政策の長年の経験、さらにはある意味日本で独自に発展を見てきた「中小企業研究」の蓄積を、世界に向けて発信し、貢献できるソフトパワーとして生かすのも、私たちの責務でもありましょう。そこで「言葉の上手下手」は問題ではありません。中味と、やる気と、共通の信頼関係を築こうとする思いがあれば、言葉の壁は些細なものとなります。それでこそ、国際化の時代を生き、その大いなる活用をはかれる、私たち同時代人の共有すべき責任と特権なのではないでしょうか。

**■2.特別寄稿　井出亜夫 国際中小企業会議　シニア・アドバイザー　■■■

ニズムを重視すること」という以上の回答を得ることは出来なかった。

経営学はこうした課題に如何に向合うべきかを考えてきたが、昨年 12 月、日本経新聞に寄せられたフィリップ・コトラーの「私の履歴書」マーケットティング論の中に、貧困の問題、平和の問題を考える問題意識と行動が力強く述べられており、米国における多様性を垣間見ることができた。

わが国における経済学・経営学の世界では、かつて日本資本主義論争の影響が残っていた当時は、歴史的視野を踏まえた全体と部分の関係を論ずる問題意識が脈々としていたし、1957 年の経済白書は、「わが国では、一方に近代的大企業のセクターが、他方に遅れた中小企業のセクターが存在する、いわば一国の内に先進国と後進国が存在する」として、この二重構造の解消をその後の経済政策や経営の一大課題としてきた。大学時代の参考図書「日本経済の現状と課題シリーズ」山中篤太郎先生編になる中小企業論「経済成長と中小企業」（春秋社，1963 年）にもこうした問題意識が横溢している。

近年の国際中小企業会議（ＩＳＢＣ）は、台北、ヨハネスブルブルグ、マカオで開催され、新興経済諸国の中小企業問題、中小企業政策についての発表が数多くなされた。グローバル経済の進展の中、アメリカ発「市場経済至上主義」の議論が横行する今日、今日まで日本が辿ってきた経験を踏まえた観察（歴史的視野と全体と部分の位置づけ）を新興経済諸国に発信、これと共有することが必要と思われる。こうした日本の観察・経験を伝えることが世界史における日本の役割ということができるのではないだろうか。

事務局注記
国際中小企業会議（ISBC, International Small Business Congress)は、1972 年に日米で設けられ、国際的な会議へと発展した組織で、長年、日本に国際事務局が設けられた。
中核的役割を果たしてきた井出理事はシニアアドバイザーとして引き続き ISBC の運営に関わっている。日本の事務局は（独）中小企業基盤整備機構内に設けられている。

■ 3.　ICSB 便り　(ICSB Bulletine:2013 年 11 月号～2014 年 1 月号 ）　■■■■■■■■■■■■■■■

3.1 ICSB 活動動向
3.1.1 役員選挙の実施
ICSB 役員(2014-15)の選挙が実施された。これまで、ICSB の役員数は 28 名だったが、2014 年度より、11 名に規模を縮小する。
http://icsb.org/news-events/882-icsb-call-for-nominations-2014-15
3.1.2　2014 アイルランド・ダブリン大会情報
2014ICSB 大会「企業家精神と持続可能性」 (2014 年 6 月 11 日-14 日)の参加申し込みが開始。

基調講演者も決定。報告論文募集は 2014 年 1 月 31 日に締め切られている。
http://www.icsb2014.org/participating_fees.html
基調講演
Richard Bruton (Ireland's Minister for Jobs, Enterprise and Innovation)
Denis O'Brien (Chairman of Digicel Group)
Madi Sharma (Founder of the Madi Group)
今後の予定
2014 年 2 月 28 日：報告論文・査読結果の通知
2014 年 3 月 31 日：早期参加申し込み締め切り（割引有）
2014 年 4 月 17 日：報告論文・フルペーパー提出期限
その他
ICSB 会長の Alves 教授（Wilkes 大学）による ICSB・2013 年総括
ACSB の発足と第一回大会についても言及
http://icsb.org/news-events/923-icsb-president-year-end-report-to-members

3.2　各国地域・支部動向
ECSB(欧州中小企業協議会)が RENT2014（ルクセンブルク大学：2014 年 11 月 19 日-21 日）で、ポスト・ドクターのための学術論文ワークショップを開催（11 月 19 日）。博士号取得後、5 年以内の研究者が対象。優れた研究論文の発掘・発刊を促進。参加希望者は 2014 年 6 月 1 日までに応募のこと（応募先などは下記 URL 先を参照）。
http://icsb.org/news-events/943-ecsb-post-doctoral-writing-workshop-pdww-at-rent-xxviii
CCSB（カナダ中小企業協議会）が Antigonish, Nova Scotia で大会開催（5 月 22 日-24 日）。
報告論文は締め切り済
http://icsb.org/news-events/945-2014-seaanz-conference-call-for-papers
SEAANZ(オーストラリア・ニュージーランド中小企業協議会)が 2014 年 6 月 17 日－18 日にシドニーで大会開催。テーマは「デジタル・エコノミーにおける先進的中小企業の成功」。
報告募集は締め切り済
http://icsb.org/news-events/945-2014-seaanz-conference-call-for-papers
The Networker 2014 年 1 月号発刊
SEAANZ のニュース・レター「The Networker」2014 年 1 月号が発刊。
http://icsb.org/news-events/941-the-networker-january-2014
SBANC(国立中小企業振興センター/アーカンソー中央大学）のニュース・レター発刊
http://www.sbaer.uca.edu/
SEAANZ の学会誌「SEAANZ Research Book Series」が論文募集（締め切り済み）
http://icsb.org/news-events/946-seaanz-research-book-series

3.3　関連学会・ジャーナル・国際会議の募集・開催動向
3.3.1 関連学会の報告論文募集

Family Firm Management Research 第 10 回ワークショップ（5 月 23-24 日）於 イタリアベルガモ　募集締め切り 2014 年 3 月 5 日
RENT2014 11 月 19 日-23 日 於 ルクセンブルク　募集締め切り 2014 年 5 月 17 日
3.3.2 ジャーナルの論文募集
Family Business Review - Special Issue
募集締め切り 2014 年 3 月 1 日
International Journal of Gender and Entrepreneurship
募集締め切り 2014 年 8 月 1 日
Academy of Management Learning & Education: 2015 Special Issue -
Learning Patterns and Approaches to Family-Business Education Around
the World
募集締め切り 2014 年 7 月 15 日
Journal of Family Business Strategy; Deadline:
募集締め切り 2014 年 9 月 15 日
3.3.3 .国際学会・会議の開催動向
The International Network for SMEs (INSME) 10th Annual Meeting
2014 年 3 月 18-20 日 於 アラブ首長国連邦
Workshop on Implementing Strategic Organisation Design: Getting it Done
2014 年 3 月 27-28 日 於 ベルギー
12th Annual International Industrial Organization Conference (IIOC)
2014 年 4 月 11-13 日 於 シカゴ、米国（Northwestern Law Searle Center）
Global Health & Innovation Conference
2014 年 4 月 12－13 日 於 イエール大学
29th Workshop on Strategic Human Resource Management
2014 年 4 月 24－25 日 於 フランス
EFMD Global Network Annual Americas Conference
2014 年 4 月 27-29 日 於 ブラジル
6th Workshop on Cooperation
2014 年 5 月 22-23 日 於 スウェーデン

2nd International Conference on the Dynamics of Entrepreneurship (CoDE II)
2014 年 5 月 22-23 日 於 ドイツ（ZEW マンハイム）
JICSB 岡室副委員長が Scientific Committee メンバー
2014 年 2 月 28 日　要旨投稿〆切
15th International Joseph A. Schumpeter Society (ISS) Conference
2014 年 7 月 27-30 日　於 ドイツ（イェナ大学）
2014 年 2 月 28 日　投稿〆切
2nd AIEA-NBER Conference on Innovation and Entrepreneurship

2014 年 8 月 18-20 日 於 韓国（ソウル、KAIST）
2014 年 3 月 10 日　投稿〆切
41st EARIE (European Association for Research in Industrial Economics)
Annual Meeting
2014 年 8 月 29-31 日　於 イタリア（ミラノ　ボッコーニ大学）
2014 年 3 月 15 日　投稿〆切
RENT XXVIII
2014 年 11 月 19-21 日 於 ルクセンブルク
5th Asia-Pacific Innovation Conference
2014 年 11 月 27-29 日　於 オーストラリア（シドニー）

■ 4.　JSBM（Journal of Small Business Management）52(1)概要　■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■

JSBM　52(1)　2014 年 1 月号が WILEY　ONLINE　より閲覧できるようになりました。
接続等に問題がある方は事務局までご連絡下さい。
http://onlinelibrary.wiley.com

4.1　On the Consequences of Market Orientation across Varied Environmental Dynamism and Competitive Intensity Levels
Gnzalez-Benito,O., Gnzalez-Benito,O. and P.Munoz-Gallego
企業の市場志向行動（Market Orientation）並びに業績の関係に影響を与える要因について、先行実証研究（市場複雑性、市場競合度、技術的不確実性、市場成長率,外部環境の不確実性など）を踏まえ、環境ダイナミズム並びに市場競合度が業績にいかに影響を与えるか、スペイン Castile and Leon 地区の従業員 20 人の企業に対して質問調査を実施し、多変量回帰分析を行った。

4.2　The Impact of Public Support on SME's Outward FDI: Evidence from Italy
Banno,M.,Piscitello,L. and C.A.Varum
海外直接投資（FDI）を実施した中小企業について、公的支援を受けたか否かによって売上成長率並びに生産性成長率が左右されるか、イタリア企業のデータベース（Simest Balance Sheets 他）を用いて実証研究を行った。

4.3　Disengagement of Nascent Entrepreneurs from Start-Up Process
S.Khan, T.Jintong and K. Joshi
当初起業家にとってのモチベーションは何か、逆にスタートアップ段階で離脱する潜在的な条件は何か、考察した。PSED データベースを用いてサンプル採取した 943 名を対象とし離脱度を被説明変数としたロジステック回帰分析を行った。

4.4　The Influence of Culture on Trust Judgments in Customer

Relationship　Developed by Ethnic Minority Small Businesses

Altinary,L.,M.Saunders and C.Wang

少数民族グループが営む中小企業において、文化が信頼にどのような影響を与えるか、考察した。Chao and Moon による”Cultural mosaic”と”Cultural tile”の理論にもとづき、文化的要素（Cultural elements）が信頼評価基準（Dimensions of Trust Judgments）を通じ顧客関係構築(Customer Relationship Development)に影響を与えるという理論モデルを構築し、イギリスに拠点を置くトルコ系企業 134 社に対し質的調査を実施した。

4.5　Generating Business Referrels for SMEs: The Contingent Value of CEO's　Social Capital

Chollet,B.,Geraudel,M.and G.Mothe

中小企業にとって自分を推薦してくれる者を増やすため、CEO の社会資本がいかに重要か検討した。

4.6　Country Distance(COD) : Development and Validation of a New Objective Measure

Martin,O.,R.Drogendijk

「国家間乖離度」（COD）を図るため、客観的で多重的な評価指標はどうあるべきか検討した。「社会経済的発展乖離度」(Socio-economic development distance)、「物理的距離」(Physical distance)、「文化歴史的距離」(Cultural and historical distance)にもとづき COD の指標を作成し、スペインの中小企業の市場選択度、スペインの貿易統計の 2 つを用いてその適切性について実証研究を通じて確認した。

4.7　The Modeling Influence of Financial Market Development on the Relationship between Loan Guarantees for SMEs and Local Market Employment Rate

Armstrong,G. et al.

政府の信用保証制度の有効性について、米国 Small Business Administration の信用保証を受けた融資事案について実証研究を行った結果、金融市場が発展していない地域では目覚ましい効果を挙げていることが明らかになった。

4.8　SMEs' Radical Product Innovation: The Role of Internally and Externally Oriented Knowledge Capabilities

Maes,J. and L. Sels

人的資産や蓄積知識など企業内部から得る知識を活用・拡充するケイパビリティ（Internally oriented knowledge capabilities）と取引先や協業先あるいは外部人材との交流など企業外部から得る知識を活用・拡充するケイパビリティ（Externally oriented knowledge capabilities)に分けて理論パス図を構築し、ベルギー企業のデータベースを用い実証分析（パス解析, Path Analysis）を行った。

4.9　The Contribution of Networking to Small Firm Marketing
O'Donnel,A.

小規模企業の経営者・管理者にとっての、人的ネットワークの有効性について質的調査にもとづき検討した。経営者・管理者が小規模企業のマーケティングに活用できる人的ネットワーク（コミュニケーション面、情報交換面、規範面）を有している時、マーケティング活動がどう変わるか、との問題意識に立ち、北アイルランドの小規模企業の経営者・管理者 30 人を対象として、深層面接調査(In-depth Interview)を行った

■　編集後記　■■■